

『 私の趣味 日本画と表装・截金（キリカネ） 』

私は、1987年に会社を退職し、何か趣味を持ちたいと思っていた時、当時住んでいた下関市で、山口県教育推進会が「生涯教育推進講座」を主催し、其処で、日本画を基本から高校の絵の先生に習いました。同時にカルチャーセンターで表装も学びました。

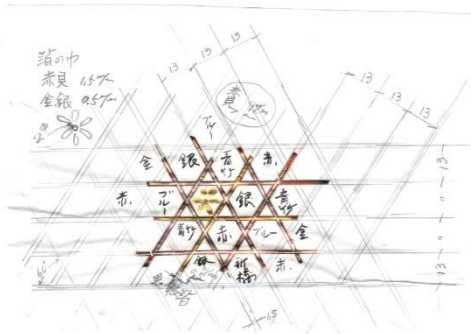
その後、家内が病気になり介護のため、日本画も中断。1998年12月、妻に先立たれ、翌年の5月より昔の仲間の紹介で、宇部市在住で東京芸術大学大学院出身の馬場良治先生の教室に入門しました。そこで日本画を学び直し、その後截金（キリカネ）の技術も学びました。

馬場先生には親切にいろいろ教えて頂きましたが、老人一人生活は危ないので、2008年4月に下関から娘のいる柏市に転居し、現在は布施新町の「ふるさとセンター絵画教室」でお世話になっています。又毎週金曜日、第3公園での健康体操にも参加し、元気に暮らしています。



平成27年5月 縄田 浩（92歳）

市展10,10 07-2-1 巻 鶴吾堂で買った貝に貼る。
 (貝の外側の塗料を削がなければ
 ので糊付けを要しないと思われる)
 (巻銀箔以外箔紙はよく書ける
 いるのか？ 今後の研究が必要)



截箔（キリハク）について

截金（キリカネ）は平安中期より仏像や仏画を華麗、荘厳にするため盛んに使用されたもので、現在では我が国独特の截金として発展していると文献に記載されています。

截箔は截金とおなじく箔（金、銀、プラチナ色箔等をそれぞれ数枚接着したもの）を

- 截金：きわめて細い線に切断して
 - 截箔：線に対して平面的に切断して
- 装飾につかったものとして区別しています